

早くから商店街が発展した月寒

「月寒」の語源はアイヌ語の「チ・キサ・プ」（われらが木をこするもの）という説と、「チ・ケシ・サブ」（丘の外れの下り坂）という説があります。「月寒」は昭和初期まで「つきさっぷ」と呼ばれていました。

月寒地区の開拓は、明治4（1871）年に現在の岩手県からの移民の入植が始まりました。明治29（1896）年に陸軍の独立歩兵大隊（後に歩兵第25連隊）が置かれてから、軍に品物を納めるため、商店街が形成されていきました。

明治43（1910）年には豊平町役場の移転により、町の行政の中心としても発展しました。

戦後は、国道36号を中心に商店街が広がり、公民館や月寒体育館など文化、スポーツ施設も充実していきました。



昭和30年頃の月寒中央商店街の様子



地域と学校が協力して作る「親子ふれあいコンサート」

毎年9月に月寒地区の町内会連合会、青少年育成委員会と月寒公民館運営委員会が共催で実施しています。地域住民の触れ合いと青少年の情操教育を目的に始まったコンサートも今年で23回目。今では、月寒地区の子どもたちが通う小・中学校と月寒高校の、合唱部、吹奏楽部などの児童生徒が200人以上参加し、住民300人以上の来場がある地域の一大イベントです。

小学生の合唱に中学、高校生が伴奏をするなど、学校間で交流したり、毎回、最後には、地域の歌である「^{つきさっぷ}月寒の少年」を参加者全員で合唱する、まさに地域と学校が一体となったコンサートです。



昨年のコンサートの様子。会場と一体となって盛り上がる

今年のふれあいコンサートは
9月19日(土)午後2時から月寒
公民館で開催します。



第1回（昭和62年）のコンサートの様子

チューバをやっています。
中学や高校の先輩の演奏を聞
けるのでとても勉強になりま
す。皆さんも「月寒の少年」を
一緒に歌ってください。



いしかしろうご
石塚省吾くん
(南月寒小6年)

いしかすな
石塚澄香さん
(月寒中3年)

姉弟で参加しています！

友達や近所の方たちが楽し
みにしてくれるので、とても
やりがいがあります。進学し
ても続けていきたいです。